



特別
~5
6685



宇久花の巻序

新編の巻序

ふりかへるゝものゝうゝひあかり

ゆゑみよまきやうりこかゝのそ

里物ゆゑなやうゝゝゝゝゝ

るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

八日花あゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

藩刀はゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しんせしをせしむしやて結凡きて
せんかろゆれぬ人まうくせし
又書し一書してはあゆまひ
池乃るまののそみ珍なりし松
じし目し珍なりし松なりん
そそをあらさゆり死よりたたり
れ上野山乃る清浄とさすし
れしつてせししそ入るそす
ゆた乃わらうゆまのこむる殿を
しそありしはははははははは
常を唯の勢れしゆの目せ

誰乃とらふふふふふふふふ
そそそそそそそそそそそそ
粉言なりしそわくはむん水
乃と種なりしそそそそそそ
しつしそそそそそそそそ
ひけたりふふふふふふふふ
ありししそそそそそそそそ
あそむしそひろくそそそそ
あそむ拾ひありしそそそそ
しそはくそそそそそそそそ
松ゆりしそそそそそそそそ

多行を可乃水をわきせしむそ
川を云無事れちむふらされわ
う門の甘之みくぬり此古を
花ゆくしはなむふあひく
ゆらうみくぬりあひく
そらひくぬりあひく
せし作意のちらふし
は小のふあひくぬり
みくぬりあひくぬり
ふらふあひくぬり
やあひくぬりぬり

水車れらふひをまづらふ
ふらふのふらふ十やを余り
ふらふのふらふぬり
よ今をぬりぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり
ふらふあひくぬりぬり

母少く時代はついでとてなると
 くあり遊くやもげり遊ひ
 乃らつるまをやゆりこれ結の
 糸う歩門書乃美々の之を
 ほほひしあつるれうれ
 くつあつるこれくひか
 乃らまへくくまゆき
 子これ仕立もさあひを
 つまられらあつるあ
 名敷いあつるあひさ
 され中よりあつるあ
 くれあつるあつる
 白あつるあつるあ
 利あつるあつるあ
 くれあつるあつるあ
 一あつるあつるあ
 中時寛文拾三の月
 申春後乃又日の中
 随流みりりりりり

鶯笛題目錄

春上

元日

子日

初寅

卯杖

若菜

九貴長

餅粥

梅

鶯

霞

具足餅

初鮒

御忌

初午

殘雪

春氷

薪能

春日

春月

涅槃

石塔

天菜花

椿

春雨

百千鳥

鸞

燕

春鷹 木芽 柳付
 痛柳付 柳魚 歸鷹
 三月三日付 曲水宴 桃
 蓬餅 鷄合 潮干
 御灯 雲雀 春駒

くくひのさゆ

春上

九日



翁閑とて萬物乃翁翁あり 劉程山長
 わすれおの念はららる千と世 西武松江氏
 紙敷業や葉うりの世は行 維舟今井氏
 元日や一まゝ身長は神其云 金壽朱源院
 ねたきとて河川を流して 三須宇和嶋住兼折氏
 眞衣う九日と長衣編あ草 宗臣山下氏流滴子
 依保娘や千早うは言まあ粧 義虎山長
 大姉もや後孫は時とて茶碗 佳種中嶋
 梅も心憶う原やいゝと 陸流中嶋

歳旦風を葉はききたるも縄 四村氏 休息

天祥やか孫け松を心門のり 藤田氏 臺

八百のり川雲雲懐や神の春 永田氏 景

松立た部八子世の仙家引 恒川氏 堯

舟利物も西折ら取とてと結解 荒木氏 一仇

福酒の宿札らや若る六尺 水野氏 藤次

蓬草丸字も若る若る官 津島氏 春實

山花も葉色も若る若る 畑山氏 一義

子ハ世小出つる物も今 坂氏 自明

書物や天比ふら風也物 小野氏 道則

比平娘の親も若る若る 吉村氏 義武

白らも若る若る室花も今 西村氏 久重

申さるおわも巳午枕之方 大恩氏 履哉

移り縄も心花も若る若る 宇和嶋共折氏 頼色

元貞新も若る若る元方 山本氏 吟子

心しゆも若る若る風花 宇和嶋共折氏 正弥

こと酒も若る若る提妻 山口氏 宗友

大姉も先立春花も若る若る 永原氏 秋月

来歌も若る若る心花 三原住江氏 不永

梨山も若る若る心花 白川住 孤山

新嘗も若る若る心花 小野氏 義道

世も若る若る心花 大西氏 善道

かう若る若る心花 内本氏 重嘉

大若る若る心花 竹井氏 貞

松竹の心守りぬ松松山氏の心京原氏の心

談業とやびて都の内藤原氏の心千之

心流や心流くまの心池田氏流川草

心物や宝着氷辻氏雜者實もら

の心同心一際立ても心實

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

心同心同心同心同心同

江戶藩住丹羽氏

正身也蓬萊を金かりて長好

か一は也清代一也か一乃子清貞

くはりの心こそあはれは去一重

松を去りの先を都や萬物の交

かろくともむらも矢倉を物の交

御代やすくはれあふり未の程吉貞

内並に松よとぬれ者もれ長光

四方廣く見内も明く此の輪

はくかぬ述くあはれも手物の光存

一輪や日輪むらむら春川口

蟻くも蜜の心もはれ神の去重常

正身也侍身も心も若氣も善次

手明く十徳ありや光も心も体知

中身初や白くもはれ心も忠良

は言ふも心も相生も心も随有

思ふも心も心も用くも心も智淺

田舎も心も心も花乃都も未及

はも心も心も心も心も一身

茶も心も心も心も心も宗丹

さる心も心も心も心も政善

六十一の心も心も

も心も心も心も心も一隆

親の世も心も心も心も長次

改年れ心も心も心も心も伊守

八幡多賀在

江別八幡

神原氏

瑞泉寺

事足齋

祐正院

今西氏

丹波

政善

一隆

長次

伊守

長好

清貞

一重

交

交

吉貞

長光

輪

川口

重常

善次

体知

忠良

随有

智淺

未及

一身

宗丹

政善

一隆

長次

伊守

おとけのふねの春のさくら坊 藤川氏 勝政

おぼろのさくら坊 池田氏 正之

おぼろのさくら坊 村上氏 長次

おぼろのさくら坊 鶴川氏 友明

おぼろのさくら坊 小川氏 忠之

おぼろのさくら坊 速水氏 休

おぼろのさくら坊 山本氏 秀

おぼろのさくら坊 日氏 至

おぼろのさくら坊 大津松本氏 道新

おぼろのさくら坊 宗家 宗家

おぼろのさくら坊 和列五所住 宗

おぼろのさくら坊 良助 良助

おぼろのさくら坊 泉五郎中九村氏 芳房

おぼろのさくら坊 舟初氏 貞則

おぼろのさくら坊 斎友氏 政善

おぼろのさくら坊 一子 一子

おぼろのさくら坊 大坂安井氏 好春

おぼろのさくら坊 安願 安願

おぼろのさくら坊 意春 意春

おぼろのさくら坊 宗次 宗次

おぼろのさくら坊 是政 是政

おぼろのさくら坊 重栗 重栗

おぼろのさくら坊 友正 友正

和加著長

内松の右むしりのもや奇を^{日并言長}受

松行も縁としも方神は去^{多武舉福長}茂

田舎を怪るれ一者都^{多武舉福長}遊して

去のころもわの洛陽も赤風^日宗貫

のめいれおなむお影の成の^日古桶

ふきまのま^日乃心

のれりも大^日直勝

何^日長順

嘗れまやま^日家入

ふま^日定浴

ふま^日一砂

ふま^日谷

林

家

勝

定

賢

直

好

道

昌

光

重

宗

わく玉の夢もやせはるし世に長長長長總

一気ぬくもや人と林の去夕煙

米冠の鳥飛松のふたこと

ほろろの門後ひのの松もまの善直

なまふかぬくくふく律の春夜覚

氏乃屬書け付かゝ庭の心貞政

く羅ふると歳且はまらむ月長重

去るれ立ゆまの心も可吟

陽春ふわの年函をけはる可春

氏乃の心も天婦や君も去次平

翔るやめぬへ一と跡は入物一文字

春見も天地くくめの一處監祐

あねの気もやらん一刻

あつふふ屋ふく一観

いぢりもとつちも春良弘

かろけり湯はひのむ櫻茂

と方思ひもまろ定直

わじりも心も重就

まむもつとまの宗直

玉春はひも日本一圓

新玉や面白甫

角の正月

絵巻や去宗政

春止

長

兼路住小松氏

日若見氏

日西塚氏

日安積氏

日里氏

日林氏

日其田氏

日里田氏

三原住永田氏

作加金世田氏

日國由丹住

若加小濱清波氏

日國住

近坂

大津行松

大和井竹谷氏

著尾

栢桂氏

遠業やむありてはなほ棋子元世

我多むと秋てはらひは元世林清

親と子世もや松林世三跡

若水や取も酒も心や運川智昌

赤守と幾つおろの川若水守政方

松やわのふたしく松も心樂

素より春や海は此天下設虫

春よりそはるるも夜夜宴

く続くころわわの物も春を物重毫

又空は入る物も松もあひす不先

境無むも春もふや心もさ平

多世や春と八は世も風う外金壽

白乃松平ふ代や春うま一吟季

如松やを松とむも三願

家の松も我とが松松養

馬も先と油も神つうさ夜賣

物もわも明て口も松も鷹導

若水乃あつと春松あひし川特堅

遠業は少くも松松松分千之

長松うと葉は林や葉は川三云

遠業は少くも松松松分千之

く松松あつと春松あひし川特堅

始由部乃春小のひて

ら取て是ハ都ふ村とぬ不采

辻氏

ら取て是ハ都ふ村とぬ不采

と積りかたき一色さし物一美

元身用勝子存尼中野の云 江戸嶋氏 川草

今道也信力せん此節との松 神原氏 久隆

明かき半ふさや之風云 伊安

さる娘と隣男の門心なる 養竟

元身は引取をれまの夷 吉重

松とてあまほくばや深草云 斎

もやまて道なる海やに松 善直

かろわら村舎の田村もふ 養竟

子とてをうすめては君の春 本名 秀女

大姉の小さきと採葉のゆふ 永原氏 砂石

天業や和合洛中をも 一黒

大姉のふさぎのふや梅法 正光

子とてのちやめとや宿風云 昌栄

目とてとてらや風扇の子 宗臣

飯沼の海もとてとて秋後 月

若水や両者もたのむ宿風云 久隆

わ守のちとて練成のり ひあゝ

〜めておぼゆるととて あゝ

松もあふさとて山天う下 谷庵

はめとておぼゆるととて あゝ

思ひはぬおぼゆるととて あゝ

大裁のちやゆらへん あゝ 春 只計

松とまはるやち婚のこゝろ也也 長好
 笑息とて我おかぬうゝあひ廿一友
 筆の猫や是も書院の難行日
 是と愛を此笑あうゝあひ行 養春

行連子まほしくいせうゝあひあはれ

松とて家以まうりや行連字日
 物富のまふ藪入やあひ行 松 重書
 若水お母と洗ふあうゝ此子 一可
 子年と何して寝い寝の角此子 清貴
 明て今物字もいふは金銀也 善美
 うい物おまし松とまう時分 一義
 九分おふはまう水やんを 好行

年當へ在ぬ罪也のり信真

坐今在

まはるや松のり外より福の神 正忠
 大崎くや寝ふて二方二方は云 勝政
 迷打もや飛早まの神を春 一友
 けりやま松もまをまはれ礼 千之
 うい也今物や二方二方難難云 三云
 いせもま春宿の風心門あうり 月
 かありあもあ葉も門難と 伊安
 一ゆみま行やあうり二あ風了婚 不永
 若あもまあすれあはれと云 設唾
 蓬菜やたしく 棋子未劫國 乘秀
 惟目おと立しく今朝の露 長枕

冬と春の角をとりて凡そ世に智淺
曲るものに終る難直也又長好
く水も花もりやと云くす三云
之をや大判小判わく米日
今朝は不難直の着もら始り
福非せよやと判松抱子宗永

高貴と云ふいふ

八百萬軸と目して平為書
屋の四也勝子もはくも言始り
自ら乃氏子也と云く者心樂
中一も宝やと云く三月三云
貝ももやと云く川井子直勝

天下也と云くはれと云くめり定秀

一ゆみと云くはれと云く高純物古福

室の福の位も成す始り集

たると云くはれと云く一子

自雲のこり子もも今月芳房

清と云くはれと云く若菜と云く

世と云くはれと云くはれと云く

数と云くはれと云くはれと云く

而代と云くはれと云くはれと云く

子れ和抄の非也と云くはれと云く

春風木公言書はれと云くはれと云く

米と云くはれと云くはれと云く

物が縁と持翹て入る花むらさ 小山 成徳

多町とまやにさうらねむねの 黒石 吉直

茨うや遠葉丹海のとて 和田氏 直重

貝かこころにふたねき 山内氏 伊安

白紙の神の松やまの物子 山内氏 義信

ついでもた家経やめが解 長年氏 吟厚

白鳥は徳白や茶子むら 山内氏 義晴

白紙は松とふたう 長年氏 道可

遠葉丹山 長年氏 道可

弓始せぬもやもの始は 長年氏 道可

松の白竹や世は牛君のま 長年氏 一義

長 長年氏 一義

言てふと何たり 長年氏 一義

明 長年氏 友實

本 長年氏 信真

神 長年氏 道可

飛 長年氏 勝政

松 長年氏 宗直

都 長年氏 道列

層 長年氏 蒼植

二十 長年氏 蒼植

一 長年氏 宗治

長 長年氏 任和

左松や枝とてくへて都のまゝも也

逢へしは守りおとと始長繩

東風志海引りやか利繩友明

書物視よむも福あり海友久

名をむは木のこは葉の山神が城秀

ら病やき孫の敷も松も也し奮賣

今朝きやまは注やも秋合なる長次

物えやまおれりなると物三云

午巳おれ元まはつめつ園豆巳迷

道葉おれり病病のま吟字

寛あや十二とてまとも物重電

公義終智新志はつ馬城門装學

太公子やむつと後公高月未平

いしつちおれりままらや松粒三願

百姓のねも福荷やわかれ方常春

まはらぬやまはまのまの道可

大姉の公背おれり換葉くれ一利

先法ら矢はねらなめり分隨者

信子やむつと馬おれり(の舌)長繩

引製は馬おれり物常と我こおし慶光

おむつちおれり(の舌)はれま中も也

之をゆつとくはまはれるま治次

山松の運やま増る三川れ勝次

おまかりや別まはつとまもえ定利

いせよいはがたの町をれおき常春
 鳥道やあす松せ原へい物政善
 残わもは往連なまきり葉不末
 正身やもはしりまてまある金壽
 書物や寛ぶみどこのま佐三木天然
 云々いふも約分ののれ教て寄
 こはら樓や柳をさあまひ紙月
 大くやき徳よむも縁こら月
 樂よあのみよあむや林のま邊分光月寺出光
 正法やうとる久あは神も春一身

江列八幡乃乃まらり

業は海や試む湖水まらり随流

子日

子日や網とし物比良小松三島八幡住氏皆春

松やふみ代もく此子日くれ井持氏友静

穴鳥やまおどりも松物子日 随流

山松とまふみりんては子日くれ 友実

内中いふ子日と書むひらく人 赤友

永遊いふは松子日とより松 金壽

業乃乃乃物て指合とさうゆ

松原や物かふ子日乃乃や二草 随流

昔や見えんむきもあまの松 養見

引せて秘へこねる具小松外 道可

君よむらぬ此徳我部ま 信玄

子何不自らとてふん松の古扁
我と松も老くちやも思ふ不雅
とふ子日ぬ人間は好ひ事奢賣
引て松もを我松松の更養見
むとあきてははひの松松金書
男松甘もむと好ひ松松三順

物寅

物とては百日記の懐もか宋源院三順
物とては子と子実もか山道氏宗浴
物とては松笑とては松松夕煙

卯杖

乃節自と辰の袖と卯杖池田氏空置
奉り卯杖や熟よとては卯杖
子玉杖箱や卯杖とては卯杖三順
去卯杖の中は松松松松隨流

七種

朝の卯杖は松松とては卯杖江氏信真
物陽毎朝卯杖とては卯杖池田三云
七種やまの卯杖は卯杖竹井重
物松は味もは卯杖井上克
ひそ松も卯杖松松乃卯杖宗重
乃松松は卯杖松松卯杖信真
卯杖松松卯杖卯杖道可
卯杖松松卯杖卯杖家

唐土も橘もやまふかの英宗臣

たぐ葉七の拍子ぬるなは賢重花井

くらんせとく侍やと大将古編

七種かろとふりおつても三云

あはれん女よませぬ若菜松本拍

人まねはれ若菜や大拍子藤次

ふ味とひいひぬ若菜や随流

月か草も若菜は橘ぬる若菜三死

年明て日怒るゆは若菜が蓋

備して大拍根行くとまて

根行つむりうまもとさけ清資寺村

あはれや水も若菜は福也勝政

鈴葉とてもふらむは若菜は友実

か思ていそ若菜福也か一道可

橘と若菜も若菜は鈴葉か三云

中世出はれ若菜はか坂金雲

ねせぬいも若菜は若菜は義武

あはれ思も若菜は若菜は一義

七か折句

七か折句は水海は若菜は若菜

あはれ思も若菜は若菜は若菜

あはれ思も若菜は若菜は若菜

あはれ思も若菜は若菜は若菜

七か折句は若菜は若菜は若菜

持分してはたや五濁の水入茶 宗徳
身は若ふ一途に茶若う細 養竟

出ぬもへ今てくもておろか 武田 金夢

ぬ露のうてらも持や仏の座 松井氏 元字

今ふ時やにてもく編まかし 泉隣 賞

わらわもばすくせえん仏の座 川尊

七種かちし舞あてせし 斎萌

ゆい草や七編并の指し舞 着

くもーまむちや七座の編じ 賞

けあつふいもて草や編じ 賞

後七若ふ末はゆもや編じ 賞

味ひも煮て各別りやうかられ 道可

持分は若茶や是も茶座り 未及

あつ人しはは茶并七茶が 養竟

茶茶はくくももやも茶並 及の

茶茶とやめくもするも茶茶 随流

く茶茶もしや都のりふら 三云

金屏や座たのはも編じ 大坂佳舟田氏 茶次

人へはははあつてくせり 日蒲佳舟田氏 一得

もふ茶茶は是柳しよふ 養交

かひ十に今くも若茶茶 丸額 休意

若や茶茶は茶茶 茶茶 鹿

まぬかひつる茶茶 茶茶 秀見

九貴長

九貴長やえもせぬ山草

書物とまじりわらふやえも^榊自足

ねんむら子丸とてよすおもふ^導

爆竹かへくお討くらひあはる^養

之種打たれりお黒まらる^{隨流}

とまごもやまはら^{宗壽}

はきてくお^{一子}

爆流のものお^{隨流}

とまごも^{時堅}

まら^{吉重}

餅粥

新宅やぬとさくらの粥柱^{太都}

はく^{道列}

く^{友実}

餅^{金壽}

あ^養

今朝の粥や赤豆^{義武}

梅

梅^{永良}

春見社奉納

の^{友田良}

梅の心^{吉重}

よく^{休意}

寺の是とほめう梅の花盛道可
物の味はくは花の露の芳り 中 定爰

天神法樂より

紅毒とむらぬ先や拓梅粒 八備 清貞

池梅とむらぬ人や久し首 宗治

花の香も梅の小池の深物屋 善祖

梅の香もはま久し人よの梅 信真

聖毒やもきこむ先は起す家 川草

もふむら梅や思へ一無及作 安直

御繪首とて戴しゆ

天氣とくもむらむら梅 瑞泉寺 智茂

花の香も金瓶の梅や一先筆 兼新 頼邑

洗毒の毒は又たふらぬれ 秋月

天神講より

梅の花はむらぬ物や思ふ人 瀧流

如外一日十句退初より

神垣や一先筆とむら春の種 因本 日

梅の香もむらぬ物や思ふ人 社氏 政長

之の好む花もむらぬ物 社氏 政勝

鉢今もれや思ふ物 對西原氏 正之

用くこふ物もむらぬ物 若原小濱氏 夕可

香もすて小春もむらぬ物 丹名 延重

思ふもこふ物もむらぬ物 丹名 光茂

多ふあてて思ふ物 丹名 正道

大寺の道ももら梅や形れん 本都
 とし毒の花のつとこ 津田氏
 吹ら道公のしつと梅花れ 小濱 一圓
 梅と継し 辻村 其美富の梅花 重泉
 松毒の諸本林中の 宇多 芳芳
 お梅や花のつと 宇多 花のぞ 重經

誓願寺春日給馬奉納了

紅梅の諸花枝物と 藤次
 物咲ら 木村風吟王 梅の枝 頼之
 咲物 道至
 月令 貞則
 水宗の毒気 貞則

お梅の毒気 貞則
 かしら 貞則
 けみ 宗臣
 宿の毒 對而
 言 真願
 梅 宗臣
 終毒 長順
 梅 盛行
 お梅 智昌
 梅 三順
 梅 宗重
 梅 変

歌よふ花やせりし小梅亦一義

題文

かゝるむい庭小こ庭よ葉梅春童子可申

一輪もくちむつて一煙書やり梅永原氏一黒

めくみわねや懐妊ふら梅 以次

神前短尺より

非小はくもよはや梅磨るり

凡乃くか心天非しと

すくかお英法丹毒風怒善道

杯つたきり母法り女母宛泥一義

徳義きりあはたすつひ物 可示

号直智乃物許る梅角梅 義亮

すはさふとらぬ也梅の氣許波 友実

ちねいあふすは梅のむれ魚 乃の

八々々れ書物いそ梅元兼所頼邑

儒者のしむいめ

梅むりの香は梅のしぬまうさ 隨流

余味母より余れぬる宛宛 昌迪武佐住

燿りもてさう徳義海り外越前守申年ト安

流もあはれお毒分すんれ 正明福井

きれふもふ念やわい宛宛墨石吉直

女の庭は毒はかりを以て

又乃日あつたせれハ

さうふ見てもふを以て梅元恒川正光

梅りもみは梅の眉の匂いれ 秀女
 花の匂いれ梅の匂いれ 家 高
 花の匂いれ梅の匂いれ 岩崎氏 宗次
 すまゝの匂いれ梅の匂いれ 宗次

号

言や花の匂いれ梅の匂いれ 山本氏 一吟子
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 伴氏 資信
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 西川氏 重長
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 是政
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 長好
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 勝政
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 一身

言や花の匂いれ梅の匂いれ 谷庵
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 舟戸 一無
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 安井 七め
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 本勝
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 對馬屋氏 夕可
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 馬淵 長順
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 貞義
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 信貞
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 三云
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 友実
 言や花の匂いれ梅の匂いれ 久隆

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり黒石一義

梅の香とていふ香也さかたり宇和島吉良一義

梅の香とていふ香也さかたり川嶋氏一義

梅の香とていふ香也さかたり多武峯一義

梅の香とていふ香也さかたり鳥千白一義

梅の香とていふ香也さかたり水口若林一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅の香とていふ香也さかたり一義

梅雨心は日貫と日抗や全名も忠良
 こまのまの呼吸や花のやど 善祖
 首は初まや花と鳥もつる 頼也来折
 遠きよすも花もまの心行 義道

夜

子と母や中を前ふりす 善夜 清貞江島八幡集

花はゆめを花あや照うら 正弥宇和嶋加幡氏

去りゆくも花あや照うら 太都

月輪は花のまの心あの一も 信真

天竺は花あや照うら 善祖

花はゆめを花あや照うら 義亮

花はゆめを花あや照うら 兼秀

朝は花あや照うら 海波 正次

花はゆめを花あや照うら 道可

花はゆめを花あや照うら 宝重井上

花はゆめを花あや照うら 一義

花はゆめを花あや照うら 專書

花はゆめを花あや照うら 安直

花はゆめを花あや照うら 友実

花はゆめを花あや照うら 吉直

花はゆめを花あや照うら 友実

花はゆめを花あや照うら 秀純

任古遠下いしものゆ

引ありしあや沖中も昔はこゝの谷庵

依傍娘の眉をけはくろくあまの重龜

いづれもあはれいふくくもあはれ良歌

松のやせ重丸屋の重丸をみ梅女

山遠く海わたすすあまのれ芳房

登風もあややうな腰障子重吉

羽衣うねるのいづれもあまのれ谷庵

いづれもあまのれあはれいふくくもあはれ昌光

下りし清や天下のまかともみ秀絶

羽衣守りて度々いふくくもあまのれ一圓

四のふたふたのあまのれ春夜一樂

去来いふくくもあまのれあはれ正道

こゝれいふくくもあまのれあはれ好貞

富山いふくくもあまのれあはれ霞

いづれもあまのれあはれいふくくもあはれ内鬘

海をわたすいふくくもあまのれあはれ正平

いづれもあまのれあはれいふくくもあはれ古福

富山いふくくもあまのれあはれあはれ高利

あまのれあはれいふくくもあはれあはれ着

あまのれあはれいふくくもあはれあはれ道

具足解

世に凡のあまのれあはれあはれ具足解 秋月

春上

三

永原氏

具足解之小部之安小導
 集部乃得也之き之具足解友実
 串柳城之安之解之き之具足解随流
 修之得之是之安其具足解着
 き之解之き之得之は之具足解道列
 之之也之是之知之乃具足解友明
 之之也之て之解之乃具足解次乎
 朋之き之事之得之乃具足解養

幼謝

幼謝乃子とて之乃也勢作 江加權 長次

幼謝乃か折新も巡の謝 信真
 子に教と八十八川おれ之謝 随流

御志

御志乃くは後御新入林お續 池田 三云

御平

御平此意也皆今之御海定 竹井氏 吉入
 御平にゆへにむき折也かたへ 夕煙
 幼平まきういふ愛之取地札 宗泉

御文

此の御文は御平御平御平 奈都
 御平と御平御平御平御平 義寛

初年や已にしに解るる作 長次
おまもり初年れむ書れ 一沈
う契せや歌久ハ初年まえ 導
初年や獲もちら首れお交後 川登
初年や髪ゆりてむ鈴かき 長繩
初年や子正信くお交後 正信
初年やいそをて追はくわの 隨流
初年やたぢふし目しありの 音置

獲書

おけや書ふはふおく大井川 江島藩寺持 春家
はそふ水わりのふふふゆさ 三六

おけや書しとては解れお女 昌栄
おけや書今小淋しや書れ果 夕煙
おけや書いふと守れお書い 常久
はと編もてまお書れお書い 一七
おけや書あつとまめや春書 恒重
おけや書お書も編もてお書 清之
おけや書お書もてお書いお書 正之
おけや書お書もてお書いお書 導
おけや書お書もてお書いお書 三云
おけや書お書もてお書いお書 古桶
おけや書お書もてお書いお書 良弘

五所在

春風やよきてわが心も水友実
春のやよきも水友の心正明

春水

雨くとも春水や心も良成
心も春水も心も良成一友
春水も心も心も良成三云
春水も心も心も良成朝

新能

新能見よ心も良成

余の心も心も良成
伴性たきく心も良成
隨流

春日

定まらぬ心も良成
宣安

江戸住竹井氏

春風もよきも良成
歩入

秋本氏

心も春水も心も良成
招喚

水口住石美氏

心も春水も心も良成
不

心も春水も心も良成
是致

春水

春水も心も心も良成
花夕

江女文書

春水も心も心も良成
親昌

宇和島御田

乃き瑠璃の堂の所給の腕月計村氏芳重

郵札の可成り多き我々の村竹谷氏竈

くる月夜は雲乃如坊也自得宗弘

晩村は是れ也と云ふ也遠めは縁一義

村より山へ渡りて此の如くこれ村上長次

山より此の如く舟珠の如く有安置

腕月也と云ふは是れ也乃後給義

涅槃

警世の如く其別もなき言米源院三死

時凡そ此を因と稱え縁 友実

此の如く今は此の如く涅槃縁 隨流

因縁の如く其也今は此の如く涅槃縁 正世

く其也今は此の如く涅槃縁 森都

此の縁の如く其也今は此の如く涅槃縁 勝茂

此の如く今は此の如く涅槃縁 三云

此の如く今は此の如く涅槃縁 善植

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 乃の

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 休意

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 一身

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 治富

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 信真

鳥の如く今は此の如く涅槃縁 道可
鳥の如く今は此の如く涅槃縁 川草

梓世ももまのつねに温盤像一義
 半尼有る入るや二四八千交道別
 秘んて多向一箇有る外乃の
 せんんせとて風を扇ふや
 書丹果等とて風を扇ふ温盤の三云
 入路也種とゆらくも温盤像長次
 多言有る入るも温盤の助景
 世の如く世の如く温盤の是政
 温盤の如く温盤の温盤の貞則
 温盤の如く温盤の温盤の勝康
 温盤の如く温盤の温盤の善直

石塔

石塔とらじ杖つこい難から耶乃の

天竺元

天竺元村上氏長次
 善直ももまのつねに温盤像一義
 半尼有る入るや二四八千交道別
 秘んて多向一箇有る外乃の
 せんんせとて風を扇ふや
 書丹果等とて風を扇ふ温盤の三云
 入路也種とゆらくも温盤像長次
 多言有る入るも温盤の助景
 世の如く世の如く温盤の是政
 温盤の如く温盤の温盤の貞則
 温盤の如く温盤の温盤の勝康
 温盤の如く温盤の温盤の善直

桂

桂
 和加多住聖噴良
 和加多住聖噴良
 和加多住聖噴良

雲橋のうらやまもあはれなる者 初山 変入

花舟の行状地をのりて多し 導可

子守のあやうき色や玉穂 善在

さうめんもくろく満堂より穂穂 勝廣

中井の善書かきしつて 芳房

らへ桂屋のほろりとして 三云

吹野の信童をのみ 三順

内記のしつりの筋を 書覺

春雨

春毎の書札の地や 瑞泉寺

静しやうらやまの 養

なま 友実

去ぬ 善植

花火 隨意

こゝろあやうき

おのれ一首

とは 道可

流 隨流

花夕

百千鳥

直勝 鉦

如武

随流

鶯

傳々としてさあさあ春藤 姫路
うさぎの想ひはあまの宴

燕

精々としてあつた 江戸馬判程 長瀬
こゝ真海山こゝあまの燕つれ花

春雪

江州橋の雪はさかた

使者のあまの情のこゝ 隨流

木目

木目あまの言はれぬ言 遠水氏丹
あまの情のこゝあまの情のこゝ 宗賢

青きあまのあまのあまのあまの 三云

楠のあまのあまのあまのあまの 一交

春風あまのあまのあまのあまの 一見

遠くあまのあまのあまのあまの 余の

柳

柳眼あまのあまのあまのあまの 東大條佳池良 三云

鞠のあまのあまのあまのあまの 大原氏 千之

あまのあまのあまのあまのあまの 夕煙

隨流亭一方向の二

あまのあまのあまのあまのあまの 山良 佳種

あまのあまのあまのあまのあまの 今川 是政

あまのあまのあまのあまのあまの 聖崎氏 重絶

五月の夜ふりしる柳の影 好春

折る心はさしつゝ髪は柳の影 比

無言のうちにさしつゝ川柳の影 友美

狩原

誰か自れも日影をさしつゝ髪 伊安

髪はさしつゝ川柳の影 伊安

誰か自れも日影をさしつゝ髪 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

ゆゑ水もさしつゝ川柳の影 伊安

高瀬

魚子音もさしつゝ川柳の影 伊安

永原

一帯の影もさしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

京

さしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

細石若山白梅

さしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

江列長外寺にて

今更なき柳の影は松の影 随流

柳の影は松の影は松の影 一吟

八幡宮の柳の影は松の影

さしつゝ川柳の影 伊安

寺村

さしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

さしつゝ川柳の影 伊安

此分住

青柳の縁を公の朝すゝ未平

菅の葉ははるかに柳伊豆利定

こぼれしもの柳の葉を討村芳房

う波守枝やとく橋川せり之政

鳥甲うく公ハえたり大坂稟

きりしてやき坂むの柳長井吟學

柳髪むぬれは乃子とてひて

川柳もつれとてあやめもつれ本勝

あゆすはつれはあゆむ事な柳露身

まら枝もつれとてあやめもつれ江原名煙

枝もつれはあゆむ事な柳柘枝名煙

はよももつれとてあやめもつれ名煙

はるかに柳の葉を公の朝すゝ未平

池のうへに柳の葉を公の朝すゝ未平

川の柳春の柳の葉を公の朝すゝ未平

の木の葉を公の朝すゝ未平

お葉もつれとてあやめもつれ

葉もつれとてあやめもつれ

お葉もつれとてあやめもつれ

お葉もつれとてあやめもつれ

お葉もつれとてあやめもつれ

お葉もつれとてあやめもつれ

お葉もつれとてあやめもつれ

多し徳も旅馬もかつりて空山一義
 のふけりも春井添へかり余姫路友愛
 腰も毛行りてかたりの友 金葉
 公春も号へ初めかたりの可事
 且し雨乃かり終始の満屋日
 光と日影は花をてゆき酒屋 着
 しのりて共今かたりのれ 本總
 秋かひも美は木米の如く序 意春
 う寸置れ無自足意も此字 兼新 宗臣
 けりむ建(南)と運より一類序 古桶
 ちあつ種(一)ゆも心置かぬ序 貞
 八陣とよりすも其は(一)ゆ序 兼新 宗臣

蹴踏(中)居るも号うゆ如序 友実
伴
 咲也か輪まわりの如く燃 只計

付曲水宴 桃
 鶏合 送藤

心ありとも世果然見月 休聖村氏意
 水運(宴)は(一)は桃も居 宗臣
 桃乃酒も柳の如く(一)梅飯 隨流
 之目付も(一)も(一)も(一)餅 金葉
 友ふあも(一)も(一)も(一)餅 吉重
 鳥好は(一)も(一)も(一)餅 昌榮
 遊も(一)も(一)も(一)餅 常久
 桃も(一)も(一)も(一)餅 導

桃乃木花家之めりやまきり 大都
曲の枝梢賦やびきりてみゆ 芳房
肌下り此書てやめり何ぞ桃 摩
こねたやももとのとどろき舞ひて
柳の影のけと巴乃字れ 真
鶏合時くく引く見物れ 一子
曲水はえんはれもれ海舟 安重

追々

とく木花の目も方はて桃柳 一義
三日のやまうりはちりあり 宗洛
もれはちめりふ舞柳は 休意
とくと珠ももろ柳花のらみ 夜実

さくら花のつれづれにやもれ 真勝
百のよそめり舞ももれ 金
道徳のよそめり舞ももれ 養
菱のよそめり舞ももれ 信真
花と実ももろ柳は守桃の 実
今もももれを柳ももれ 善
之身れももれを柳ももれ 吉重
草花餅ももれを柳ももれ 金
白桃ももれを柳ももれ 吟子
桃花ももれを柳ももれ 宗次
之身れももれを柳ももれ 一義
桃ももれを柳ももれ 道

岩崎氏

八幡牧乃約々之書

蝸の入りまはし約々のみ伴只計

いまだらふまはし約々のみ伴只計

蝸の入りまはし約々のみ伴只計

隨流

